

口絵



中ノ浜遺跡出土の土笛

写真は、山口県下関市豊浦町川棚字中ノ浜に所在する中ノ浜遺跡から出土した土笛である。発見当初は中国に起源をもつ「陶埴」にプロトタイプが見いだせるという説から陶埴と呼ばれていたが、近年は弥生時代の土笛の呼称が一般に定着している。

その呼称からも分かるように、長年楽器として研究がなされてきたものの、近年の研究では楽器としての機能は疑問視されており、楽器機能が形骸化したとする説や、楽器ではなく漂着したココヤシの実の模造品であるといった説が唱えられている。

これまで30遺跡118例が確認されているが、本例は墓地遺跡における2例目の出土であり、土笛が当時の社会でいかに使用されたかを検討する上で非常に重要な価値をもつものであると考えられる。

鷹野 あきこ